資料５

令和７年度施策懇談会実施結果について

○ **開催日時**　令和８年３月３日（火）9:00～12:00
○ **会　　場**　神奈川県庁　新庁舎５階　第５会議室
○ **参加者数**　県民会議委員：21 名　神奈川県：13 名
○ **目　　的**　これまでの水源環境保全・再生かながわ県民会議の取組・成果等について振り返り、大綱期間終了後の県民参加のあり方を検討するため、施策懇談会を開催する。
○ **概　　要**　各委員会・チームでの検討状況を報告後、事務局から令和９年度以降の新たな事業等について補足説明し、委員全体で意見交換を行った。
意見交換等の内容は以下のとおり。

■　各委員会・チームとの連携について

各委員会・チームにおける検討状況
➢　各委員長・チームリーダーから報告（別添のとおり）

全体での議論（主な意見）
➢　現行の枠組みで行っていくとするならば、今回各委員会・チームから出された内容は素晴らしいと思う。施策調査専門委員会の方に各チームに来てもらったり、公募委員も専門委員会に出席して意見を出していけるといい。 ➢　事業モニターに行ってもらう場所は、うまく進んでいる場所よりも課題のある場所に積極的に行ったほうが、県民会議としての活動が充実するように思う。事業の実施主体から課題を説明してもらい、解決策を検討するほうが時間が有効に活用できるのでは。 ➢　各委員会・チームをサポートするようなテクニカル部隊ができるとより効果的だと思う。情報発信の仕方も色々あるので（対面（カフェ・シンポジウム）、オンライン、動画配信）、デジタルの使い方を検討し、実装する部隊が一つ。今後ＮｂＳや生態系サービスの視点を積極的に取り入れていく必要があるため、それらのデータを解析・評価できるような支援部隊（外部委託のイメージ。行政職ではなく専門家。一部は県の研究機関もあり得る。それ以外に民間の専門家、大学の研究機関など）もあるとよいのではないか。（予算の範囲内で） ➢　施策調査専門委員会と事業モニターの連携図の中で、「⑧事業内容の見直し/次期計画への反映」とあるのが気になった。入れるとすれば「点検結果報告書」（図の⑥）ではないか。５年ごとの計画の改定は別途整理する必要がある。また、市町村へ事業モニターの結果をフィードバックするスキームを作成しないといけない。 ➢　連携のうち①ストーリー性の議論が特に大事。このストーリーが参加者に共有されていないと、施策がどこに向かっているか分からない。何が課題か、何がゴールか、そのために何を展開するのかが重要。 ➢　アンケート結果を集計し、施策へ反映・活用できる仕組みを検討しないといけない。 ➢　連携に当たって、委員会・チーム間のコミュニケーションや議論が増えることになる。付随して調べることも増えるだろう。委員の負担も増えるので心して取り組まないと。

- 連携図の中に「県民」の記述がない。知らない人たちに知らせていくのはこれまでの活動でやってきたが、ある程度知っている人への普及啓発も必要。県民を意識して検討していかないと。単純に知らない人に知ってもらうだけではない。

■ 県民会議のあり方について

全体での議論（主な意見）	

- 公募委員の意見を一般県民の総意として考えてよいのか。そもそも公募委員とは水源環境に関する取組に関心が強い人だと思われる。準公募委員を設けて、別の業種・業界の方をスカウトして参加してもらうのはどうか。
- 現状イベント参加者は 50～60 代の方が多いが、若い人にも取組を知ってほしい。そこで、環境教育の専門の方に加わってもらうのはどうか。
- 現在の公募委員をエリア別にみると、水源地域である県西地域が少ない。10 人の枠にこだわらず、水源地域（上流域）の枠を広げてもいいのではないか。
- 公募委員の任期が 2 年というのは短い。
- 今後の 20 年間は、森林のモニタリングが重要で、データを的確に取っていくとともに、データの蓄積が大事。
- 今後の指標の検討には、自然環境保全センターも加わったほうがよい。
- 自然が入ると指標を作るのは難しい。カテゴリーごとにタイムスケジュールが異なる。今後の 20 年は維持と再生の両方の視点があり、同じ視点で指標を作成してよいものか。目的に合った指標を作らないといけない。
- 全体会議の人数はちょうどいい。専門的な事柄についていけないこともあるが、今まで通りの体制でよいのではないか。
- 県民会議は報告事項が多く、議論の時間がなかなかとれない。30 分でもいいので議論の時間を取るのはどうか。最近のトピックの共有などになるかもしれないが。
- 県民の生活向上（ウェルビーイング）のモニタリングが必要では。

■ 全体を通しての意見交換

主な意見	

【かながわ水源環境保全・再生基本計画について】

- 都市部との交流事業について、県民会議がコンダクターとなったバスツアーなどよいのではないか。
- 都市部の住民が郊外に行くのは強い動機が必要。水源地域と都市部が求めるプランは異なるので、横浜・川崎などが主催して、例えば横浜駅に集合して連れていく、というプランのほうがやりやすいのではないか。
- 県外上流域の生活排水対策が廃止となるためその影響が知りたい。(モニタリングが必要では)
- 廃止する事業や返還する森林などについて、手放すのではなく、維持・監視していくことが必要。

- 森林事業の最終目的とは。目標ごとに色分けできるといいのでは。
- 総合水管理の視点で、水質・水量の確保についてモニタリングが必要ではないか。
- 気候変動等を踏まえて施策の±ができるようにしないと。例えば今回 PFAS 調査が加わったが、将来違う物質が出てきたときに対応できるように。

【市町村との連携について】

- 市町村との関係について、これまで 20 年はあまり重要視されてこなかったが、市町村ともコミュニケーションをとる仕組みが必要。
- 市町村によって体制などは様々。市の困りごとを引き出せるようなモニタリング体制を考えては。
- 事業モニターでは市町村から事業について説明を受ける。情報発信チームとして市町村の意見を吸い上げることができるかも。(公募委員は両チームに所属しているので)

【新しい指標について】

- 的確にデータを取ること、データの蓄積が大事になる。自然環境保全センターのモニタリング結果などと一体化して指標を考えていく必要があるのではないか。
- 以前は河川が汚れていたが、ザリガニ駆除などしたおかげで生態系が戻ってきている実感がある。また、レッドデータ上、ランクがＩA だった種で、近年ＩB やⅡに下がったものがある。そのような指標を探していくこと、またそれに対する方向性を打ち出していくことが必要。

【情報発信について】

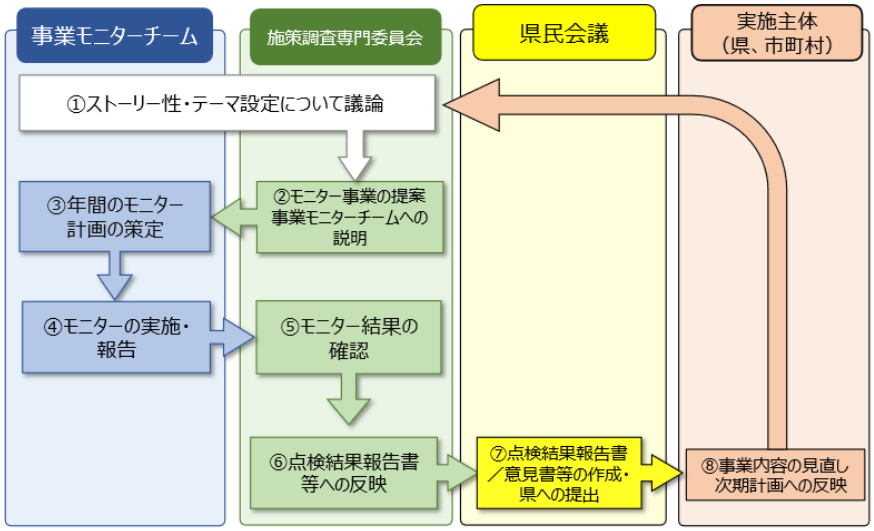
- イベントに来てくれる方の年齢層に偏りがあるので、年齢に合わせた情報発信ができるとよい。有識者によるミニ講演など実施するとよいのではないか。子ども向けの紙芝居はあるので大人向けのコンテンツを考える。
- もり・みずカフェアンケートの収集に特化してしまっているので、もっと情報発信できることがあるとよい。
- アンケート結果を集計して、県民の方の興味のある分野について発信していくのが公募委員の役目と考える。
- YouTube など動画で資料がみられるとよいのでは。動画は、1 話ではなく何話か続くような連続性のあるものだと興味を持ってみてくれるのでは。アニメを使ってもいい。

別添

各委員会・チームにおける検討状況

(1) 施策調査専門委員会

ア　事業モニターチームとの連携について



① 各事業のストーリーの整理
② モニター事業の提案、説明
③ モニター計画の策定
④ 事業モニターの実施、結果の報告
⑤ 事業モニター結果の確認
⑥ 点検結果報告書等への反映
⑦ 点検結果報告書等の作成、県への提出
⑧ 事業内容の見直し・次期計画への反映

イ　その他の委員会・チームとの連携について

施策調査専門委員会

(1) 施策の進捗や効果を把握するための指標・方法等に関すること
(2) 施策の点検・評価に関すること
(3) 施策の実施状況・評価等に関する県民への情報提供に関すること

・施策の点検・評価にしっかり県民意見を取り入れる。
・報告書の内容が県民目線で分かりやすいものとなっているか。

・審査会への助言、オブザーバー出席　など

・点検結果・最終評価につながる情報
・ＮＰＯ等からの意見提出

・シンポジウムでの登壇
・説明ポイントの教授・解説
・アンケート項目の検討　など

・効果的な県民意見の収集・報告
・県民目線での意見

市民事業専門委員会

(1) ＮＰＯ等が行う事業を支援する仕組みに関すること
(2) 対象事業の審査に関すること

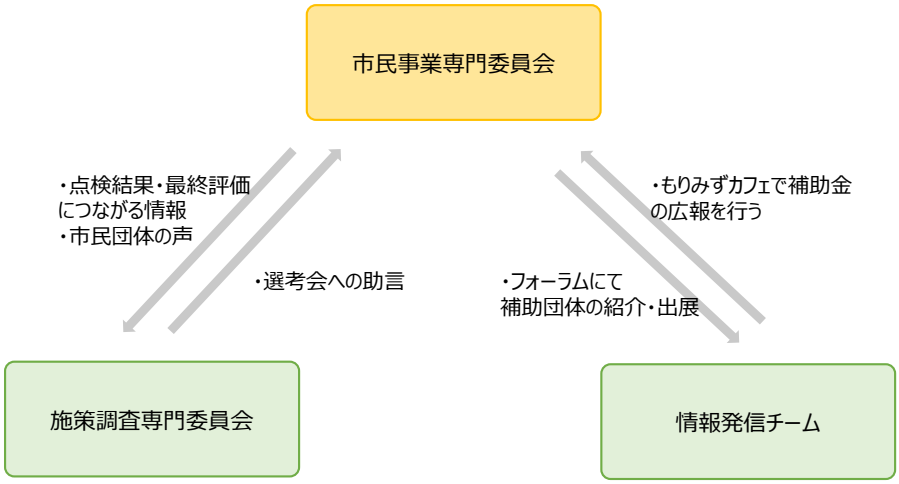
・対象事業の審査に当たり有識者の意見が聞きたい。

情報発信チーム

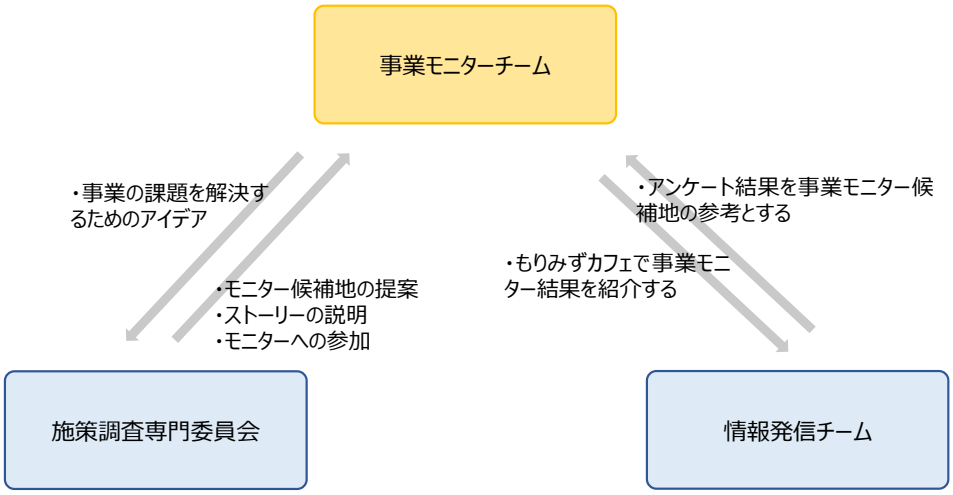
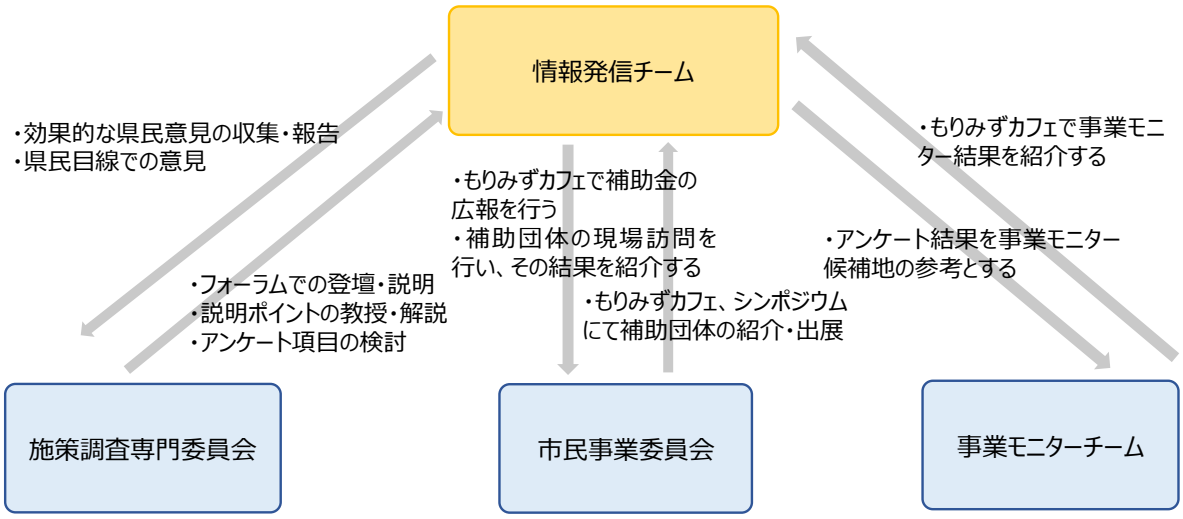
水源環境保全・再生施策に関する県民意見の集約及び県民への情報提供

・シンポジウムでは有識者の方から分かりやすく施策の説明をして欲しい。
・もりみずカフェでは、５分程度しか説明時間がなく、どのような説明をしたらよいか意見を聞きたい。
・フォーラム参加者へのアンケート内容が施策の評価に活用できる内容となっているのか。アンケートに入れたほうがよい項目はあるか。

(2) 市民事業専門委員会



(3) 事業モニターチーム



(4) 情報発信チーム